

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①学力学習状況調査を詳細に分析し、各学年で定着している事項や定着していない事項を洗い出す。その結果を基に実態に応じた手立てを各学年で考え、1年間継続して指導していく。 ②「できた」「わかった」と子どもが実感する授業を構築する。	①国や市の学力・学習状況調査の結果を授業改善に一層活用していく必要がある。 ②子どもが自ら学力向上の取組を進められるような評価の在り方を研修していくことが課題。さらに評価=指導と一体化した授業の構築を図る。	B
豊かな心	①道徳、学級活動、全校朝会、人権週間を使い、他者と自分を大切にすることを理解し実践できるように意図的に授業や活動を行っていく。 ②1年間を通して縦割り集会を行うとともに、年間3回縦割り給食を行い異年齢同士のつながりを強化し他者を思いやる気持ちを育てる。	①重点研究として道徳科を取り上げ、全職員で研究に取り組んだ。子どもの心の教育として大きな成果を上げた。 ②縦割りのグループによる全校遠足、挨拶運動など、異年齢集団での活動は活発に行われ、豊かなつながりをつくることができた。	A
健やかな体	①学校保健委員会で1年間のテーマを決め、そのテーマに沿って各クラスで具体的な取組を決めて健康な体作りを行う。 ②縄跳びやボール運動を取り上げ、学校全体の目標記録を設定した縄跳び大会や、ドッジボール集会を実施し、体力の向上に励む。	①保護者等と合同の学校保健委員会を開き、一定の成果を得ている。令和2年度はさらに実効性の高い内容に工夫したい。 ②「元小オリンピック」など体育的集会を開き、教科としての体育科と並行して児童の体力を高めることができた。	A
人権教育	①誰もが安心して学校生活が送れるよう、定期的児童からアンケートを取ると共に担任と児童との個人面談を行い、常に児童の実態把握に努める。特に「いじめ」は絶対に許さないという指導を重視する。 ②人権週間には外部の講師を招き、直接話を聞いたり、体験的な学習を行ったりする。	①YPアセスメントによる集団的な実態把握を行うとともに、高学年面談等、担任と児童との面談なども実施し、安心できる環境を整えた。 ②アメリカから人権団体関係の講師を招いて講演を行ったり、全学年で福祉体験学習を行ったりして、児童の人権意識を高めた。	B
特別支援教育	①学習のユニバーサルデザイン化、YPアセスメントや個別の支援計画の作成、特別支援教育研修等を通して、支援や指導の充実を図る。 ②特別支援校内委員会を活用し、配慮を要する児童に寄り添ったきめ細かい対応を進める。	①年間を通して特別支援に焦点を当てて協議し、個別級や一般級といったふさわしい学びの場の提供について何度も校内委員会を開いた。転級の児童が年度内に2名生まれた。 ②昨年度の児童理解研究を活かして対応することができた。	A
児童指導	①「元小スタンダード」に基づいて全職員が共通した指導を行う。 ②トラブルを未然に防ぐためにきめ細かい行動観察を行う。毎週の打ち合わせで児童の様子を共有化し、翌日の教務会では対応協議し、いじめ防止対策委員会を開催するなど、3段階の児童指導対応体制を構築する。	①機に応じてスタンダードを全職員で確認し、校内で最低限の共通した指導を心がけた。 ②いじめについては、計画通り、3段階・4段階の報告体制、対応体制を整え、きめ細かい対応を進めることができた。	B
保護者・地域連携	①積極的に学校から、学校だよりや学校ホームページ、学級だより等で情報発信を行う。 ②公的機関や企業等の出前授業等を取り入れ、学校外の人材と連携して豊かな教育活動を推進する。	①学校ホームページを活用した連絡体制は大幅に改革することができた。令和2年度はさらに活用を広げ、成果を伸ばしたい。 ②出前授業等外部人材の活用は、単元学習の流れを意識し、精査する検討を進めている。新教育課程に反映できそうである。	B
学校運営協議会	①年7回の会議を開催し、授業参観や行事参観等も通して学校が抱える課題を情報共有し、学校にとって有効なご示唆をいただき地域と共に学校づくりを行っていく。 ②地域連携担当を協議会内に位置づけて学校と家庭・地域が連携し、共に充実した活動を創造していく。	①本年度も7回実施することができた。校内の教育活動はもとより地域防災拠点等と連携した教育活動等についても共に検討し実行することができた。 ②地域連携担当を通して学校と地域のwinwinの関係をつくり、両者にメリットがあった。	A
いじめへの対応	①いじめ防止のために児童へのアンケートを複数回行い、実態把握に努める。面談も実施する。 ②いじめが起きた場合は、チームとして迅速に対応し毅然とした態度で指導する。保護者との連携もと、家庭と学校で共通した認識のもと解決を図る。	いじめについては、チームで対応することができた。また、担当指導主事、カウンセラー、SSW、警察、区役所などと連携して解決する体制を整えることができた。学校の対応体制の構築としては大きく成長した一年だった。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①校務分掌を大きく2つのプロジェクトチームにまとめ、小規模校でもチームで取り組める組織体制をつくる。 ②キャリアステージに応じた授業研究会や研修会に参加し自ら教師力向上に努める。 ③教員免許を要しない仕事は職員室アシスタントの活用、業者委託などで業務改善を図り、定時退勤日に設定したり、留守番電話設定をしたりするなど、業務に集中できる環境を整える。	①プロジェクト会議の実施は単発の会議の回数を減らす大きな成果を出している。令和2年度はさらに内容の整理を進める。 ②メンター研修の成長が著しい。リーダーの若手教員と担当の主幹教諭がよい研修を創作していた。 ③働き方改革は、かなり前進している。	B
ブロック内評価後の気付き	「子ども会議」を軸に中学校ブロックの交流を進め、児童・生徒への指導は充実したと思う。「だれにとっても居心地のよい学校づくり」をテーマにブロックでも区でも話し合いを進め、それを校内にフィードバックすることができた。またブロック授業研では「主体的な学びができる子どもを育てるための手立て・工夫」をテーマに小中学校の両方で授業を公開し、教科指導よりも「テーマに沿った子ども育て」に視点を当てた研究をすることができた。		
学校関係者評価	学校運営協議会の委員から多くの意見を寄せていただいている。道徳科の授業については、特に高い評価をいただいた。各学級の指導について認めてくださり、また児童の発言から心の育ちに気づき、ほめてくださった。学校と家庭・地域とのつながりがとてもよい。学校運営協議会の委員は自治会・防災拠点・おやじの会・PTAなどから代表が出ていることから、地域全体の活性化に向けた協議も通じて本校の教育活動について高く評価をしていただくことができた。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①学力学習状況調査を詳細に分析し、各学年で定着している事項や定着していない事項を洗い出す。その結果を基に実態に応じた手立てを各学年で考え、1年間継続して指導していく。 ②「できた」「わかった」と子どもが実感する授業を構築する。		
豊かな心	①道徳、学級活動、全校朝会、人権週間を使い、他者と自分を大切にすることを理解し実践できるように意図的に授業や活動を行っていく。 ②1年間を通して縦割り集会を行うとともに、年間3回縦割り給食を行い異年齢同士のつながりを強化し他者を思いやる気持ちを育てる。		
健やかな体	①学校保健委員会で1年間のテーマを決め、そのテーマに沿って各クラスで具体的な取組を決めて健康な体作りを行う。 ②縄跳びやボール運動を取り上げ、学校全体の目標記録を設定した縄跳び大会や元小オリンピックを実施し、体力の向上に励む。		
人権教育	①誰もが安心して学校生活が送れるよう、定期的児童からアンケートを取ると共に担任と児童との個人面談を行い、常に児童の実態把握に努める。特に「いじめ」は絶対に許さないという指導を重視する。 ②人権週間には外部の講師を招き、直接話を聞いたり、体験的な学習を行ったりする。		
特別支援教育	①学習のユニバーサルデザイン化、YPアセスメントや個別の支援計画の作成、特別支援教育研修等を通して、支援や指導の充実を図る。 ②特別支援校内委員会を活用し、配慮を要する児童に寄り添ったきめ細かい対応を進める。		
児童指導	①「元小スタンダード」に基づいて全職員が共通した指導を行う。 ②トラブルを未然に防ぐためにきめ細かい行動観察を行う。毎週の打ち合わせで児童の様子を共有化し、翌日の教務会では対応協議し、いじめ防止対策委員会を開催するなど、3段階の児童指導対応体制を構築する。		
保護者・地域連携	①積極的に学校から、学校だよりや学校ホームページ、学級だより等で情報発信を行う。 ②公的機関や企業等の出前授業等を取り入れ、学校外の人材と連携して豊かな教育活動を推進する。		
学校運営協議会	①年7回の会議を開催し、授業参観や行事参観等も通して学校が抱える課題を情報共有し、学校にとって有効なご示唆をいただき地域と共に学校づくりを行っていく。 ②地域連携担当を協議会内に位置づけて学校と家庭・地域が連携し、共に充実した活動を創造していく。		
いじめへの対応	①いじめ防止のために児童へのアンケートを複数回行い、実態把握に努める。面談も実施する。 ②いじめが起きた場合は、チームとして迅速に対応し毅然とした態度で指導する。保護者との連携もと、家庭と学校で共通した認識のもと解決を図る。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①校務分掌を大きく3つのプロジェクトチームにまとめ、小規模校でもチームで取り組める組織体制をつくる。 ②キャリアステージに応じた授業研究会や研修会に参加し自ら教師力向上に努める。 ③教員免許を要しない仕事は職員室アシスタントの活用、業者委託などで業務改善を図り、定時退勤日に設定したり、留守番電話設定をしたりするなど、業務に集中できる環境を整える。		
ブロック内評価後の気付き	ブロック内評価後の気付き		
学校関係者評価	学校関係者評価		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
人権教育	c4		
特別支援教育	c5		
児童指導	c6		
保護者・地域連携	c7		
学校運営協議会	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気付き	ブロック内評価後の気付き		
学校関係者評価	学校関係者評価		

中期取組目標振り返り
「PLAYERS FIRST!」を合言葉に、子どもを大切にし主役として位置づけ、誰もが生き生きと成長する学校を創り出すという目標を職員全員が意識して取り組むことができた。子どもに寄り添い、「子どもの成長」を「ものさし」に評価し、指導の内容・方法を判断していく姿勢が身につけ始めている。まだ道半ばであるが、来年度に続けるためのよい雰囲気はできているので、今後の伸びがさらに期待できる。教科指導については、まだ今後の課題として残る。令和2年度は重点研究を算数科と位置付けたので、力を入れていきたい。

中期取組目標振り返り

中期取組目標振り返り